



図2: SDRの作用機序の模式図とSDR変異体の表現型

(左) SDR(分泌型おとりインスリン受容体)の作用機序。グリア細胞から分泌されたSDRは、体液中でインスリン様ペプチド(Dilp)に直接結合し、細胞膜上にある本来のインスリン様ペプチド受容体(InR)への結合を阻害することで、体の成長を抑制する。

(右) SDR変異体の表現型。血中のSDR量に応じて体サイズが変化する。SDRを欠損させると体サイズが大きくなり、反対に過剰発現させると小さくなる。